

行政事業レビューシート (文部科学省)						
予算事業名	先端基盤技術研究開発の総合的推進		事業開始年度	平成15年度		作成責任者
担当部局庁	文部科学省		担当課室	研究振興局基礎基盤研究課		基礎基盤研究課長 内丸 幸喜
会計区分	一般会計		上位政策	新興・融合領域の研究開発の推進		
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-		関係する計画、 通知等	-		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度 以内)	将来重点的に推進すべき研究領域を特定するため、次世代技術の基盤となる潜在的な可能性を有した基盤研究の動向調査を行うとともに、当該科学技術が社会に与える影響等について先見性のある調査を実施する。					
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	幅広い分野の研究者に加え、産業界の関係者等で構成された会議において、光科学技術振興のあり方の検討や「光・量子科学研究拠点形成に向けた基盤技術開発」課題の選定等を行うほか、数学・数理科学と他分野の連携・協力による研究などの新興・融合分野の研究開発の推進に向け、現状の問題点の抽出や事業のあり方の検討等を実施。また、光科学技術や数学・数理科学に留まらず、次世代技術の基盤となる潜在的な可能性を有した基盤研究に関する情報収集等を実施するため、国内における各種会合等への出席や研究成果の応用先である産業界への調査並びに先進的な取組みを実施している諸外国における現地調査等を実施。					
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでに光科学技術の推進に関する懇談会等を開催したほか、平成21年度においては、数学・数理科学と他分野の連携・協力の推進に関する勉強会を開催し、数学・数理科学と他分野の連携・協力の推進のための今後の施策等のあり方の検討を行っている。</li> <li>また、「光科学フォーラムサミット」や「最先端の光の創成を目指したネットワーク研究拠点プログラム」シンポジウム等に参加したほか、光科学技術拠点であるJAEA関西光科学研究所等の現地調査等を28件実施</li> </ul>					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	4.2	4.0	4.0	4.1	-
	執行額	2.7	1.1	1.2		
	執行率	65.0%	27.0%	29.2%		
	総事業費(執行ベース)	2.7	1.1	1.2		
自己点検	支出先・ 用途の把握 水準・ 状況	・本事業にかかる経費は、文部科学省において直接執行しており、会計規則に基づき適切な処理に努めている。				
	見直しの 余地	<ul style="list-style-type: none"> <li>光科学技術や数学・数理科学を中心とした新興・融合領域の研究に続いて、次世代技術の基盤となる基盤研究の探索のため、現地動向調査等を効果的に活用する。</li> <li>執行率が低いことから、要求段階から次年度の審議事項について、具体的な検討ができるよう努力すべき。</li> </ul>				
予算   監   視 の ・ 所 効 見 率 化	<p>1. 事業評価の観点: この事業は、光科学や数学・数理科学といった次世代技術の基盤となりうる研究についての動向調査等を行う長期継続事業であり、毎年度の予算の執行率も低くなっている。</p> <p>2. 所見: 長期継続事業であるにも関わらず、複数年度にわたり予算と執行が大きく乖離し続けていることから、事業内容を再点検した上で、いったん廃止し整理統合すべきである。その際、予算執行の実績を的確に把握し、予算との差異の要因等を十分精査しつつ、予算を縮減すべきである。</p>					
補 記	<p>平成21年度は数学・数理科学と他分野の連携方策に係る新事業の検討のため、委託調査「数学・数理科学と他分野の連携・協力の推進に関する調査・検討～第4期科学技術基本計画の検討に向けて～」や諸外国の実態を正確に把握するため、(独)科学技術振興機構(JST)のG-TeC(海外比較調査)による「新興・融合分野の海外における具体的推進策の調査」の調査結果を踏まえた上で、有識者で構成された会議を開催し、我が国における数学・数理科学と他分野の融合のあり方について検討する予定であったが、調査結果の集約化及び分析に時間がかかったため、会議を開催できず、委員にかかる旅費や報告書作成等にかかる経費がかからなかった。</p> <p>なお、平成22年度は本調査結果を受けて、新興・融合領域を形成する数学・数理科学と他分野の連携方策に関する新事業の制度設計や運営に係る審議を行うとともに、国としての数学・数理科学等への取組みやあり方に対する検討を行うこととしており、これらに関する経費の適切な執行に向けて取り組んでいくところ。</p>					

【A】

文部科学省  
1. 2百万円

・委員等旅費: 0. 3百万円  
・謝金 : 0. 1百万円  
・庁費 : 0. 1百万円  
・職員旅費 : 0. 7百万円

を含む

事業概要

光・量子科学技術の振興に向け、平成20年度より事業を開始した、「光・量子科学研究拠点形成に向けた基盤技術開発」の事業を含め、光科学技術全体の方向性の検討や課題の選定等を行うほか、数学・数理学と他分野の連携・協力による研究などの新興・融合分野の研究開発の推進に向け、現状の問題点の抽出や事業のあり方の検討等を実施するため、幅広い分野の研究者に加え、産業界の関係者等で構成された有識者による会議を開催。

また、光科学技術や数学・数理学に留まらず、次世代技術の基盤となる潜在的な可能性を有した基盤研究に関する情報収集等を実施するため、国内における各種学会等への出席や研究成果の応用先である産業界への調査並びに先進的な取組みを実施している諸外国における現地調査等を実施。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を  
しているかについて補足する)  
(単位:百万円)

**費目・使途**  
 (「資金の流れ」  
 においてブロック  
 ごとに最大の金  
 額が支出されて  
 いる者について  
 記載する。使途  
 と費目の双方で  
 実情が分かるよ  
 うに記載)

A. 文部科学省			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
委員等旅費	数学・数理科学と他分野の連携・協力の推進会議へ出席するための旅費等	0.3			
謝金	数学・数理科学と他分野の連携・協力の推進会議の出席にかかる謝金等	0.1			
庁費	数学・数理科学と他分野の連携・協力の推進会議開催経費	0.1			
職員旅費	現地動向調査	0.7			
計		1.2	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0